

# 株主との対話の推進と開示について

当社は、『株主・投資家の皆様との円滑な対話を推進し、適切で透明性の高い情報開示を行うこと』を基本方針としております。具体的な行動指針は以下の通りです。

## 1.透明性と公正性の確保

当社は、事業活動や財務状況に関する情報を、透明かつ公正に開示することを基本方針とします。株主・投資家の皆様が正確かつ適切な判断を行えるよう、信頼性の高い情報提供に努めます。

## 2.適時かつ適切な情報開示

当社は、財務報告書や事業の進捗状況など、重要な情報を適時かつ適切に開示します。

## 3.株主総会およびIR活動の充実

当社は、株主総会および各種IR（投資家向け広報）活動を通じて、株主・投資家の皆様との対話を促進します。特に定期的なIRイベントの開催や、経営陣との直接対話の機会を設けることで、建設的な意見交換を可能とします。

## 4.コーポレート・ガバナンスの強化

当社は、適切なコーポレート・ガバナンスの実践を通じて、透明性と説明責任を確保し、株主・投資家の皆様との信頼関係を維持・向上させます。

## 5.フィードバックの積極的な受け入れ

当社は、株主・投資家の皆様からの意見や提案を重要な経営資源と位置付け、真摯に受け止めます。いただいたフィードバックを経営判断に活かし、企業価値の持続的向上を図ります。

当社は、これらの基本方針、及び行動指針に基づき、株主・投資家の皆様との信頼関係を築き上げ、企業価値の向上に努めてまいります。

# 株主との対話の推進と開示について

## ■対話イベント等の実施実績（2024年1月～2024年12月）

対話イベント等の名称	回数（／年）	実施時期
決算説明会	2回	2月、8月
定時株主総会	1回	3月
機関投資家・アナリストとの面談	25回	随時
個人投資家向け説明会（名証IRエキスポ2024）	1回（2日間）	9月
個人投資家からの個別対話	7回	随時
株主通信の発行	2回	3月、9月

# 株主との対話の推進と開示について

## ■株主・機関投資家との主な対話内容

	内容
株主と対話の主な対応者	代表取締役社長を中心に取締役及びIR担当の対応による個別の面談
対話を行った株主の概要	国内外（主に国内）25件 対応者の担当分野：アナリスト・ファンドマネージャー等
対話の主なテーマや関心事項	業績に対する評価、事業状況、市場・業界状況、新規事業、成長戦略、資本政策、株主還元 ・ 情報サービス事業について Google等クラウドサービス関連事業の伸長、シェア、今後の成長 商品販売の伸長要因 不採算案件発生の際の経緯、状況 ・ 収納代行サービス事業 セグメントの利益率の推移 ・ 採用、人件費等 ・ Challenge1000の状況、来期への見通し、M&Aの考え方
対話により取り入れた事項	決算発表の翌営業日には説明資料を開示

# 株主との対話の推進と開示について

## ■個人投資家との主な対話内容

個人投資家向け説明会、個人投資家との個別対話における主な内容は以下の通りです。

分類	内容
業績全般	<ul style="list-style-type: none"><li>・セグメント別、サービスの業績</li><li>・業績が伸びた理由、伸びなかった理由</li><li>・業界におけるシェア</li><li>・今後の見通し</li><li>・新しい分野への取組みについて</li></ul>
経営・事業戦略	<ul style="list-style-type: none"><li>・中長期計画の内容、達成施策</li><li>・当社の強み、特徴</li></ul>
体制	<ul style="list-style-type: none"><li>・人材確保施策</li></ul>
株価	<ul style="list-style-type: none"><li>・配当性向の向上施策</li><li>・株主優待の継続</li></ul>

# 株主との対話の推進と開示について

## ■経営陣へのフィードバックの状況

当社では、株主との建設的な対話を通じて得られた意見や提案を、経営陣に適切にフィードバックする仕組みを整備しています。具体的には、以下のような取り組みを実施しています。

### 1. 定期的な報告

株主との対話により収集した意見・要望を、取締役会および経営会議において定期的に報告し、経営判断の参考としています。

### 2. IR部門と経営陣の連携

IR部門が対話を通じて得た株主の関心事項や懸念点を整理し、適宜、取締役や執行役員と共有することで、経営戦略や事業運営に反映できる体制を構築しています。

### 3. エンゲージメント活動の分析と改善

対話内容の分析を行い、株主からのフィードバックを経営戦略やコーポレート・ガバナンスの改善につなげるとともに、対話の質を向上させるための取り組みを継続的に実施しています。

### 4. 開示の充実

重要なフィードバック内容については、事業報告書（株主通信）やコーポレート・ガバナンス報告書などを通じて、適切に開示し、透明性の向上を図っています。

このような仕組みにより、株主の声を経営に反映し、持続的な企業価値向上に努めてまいります。